

## 2020 年度海洋教育実施状況報告書

### 1. 実施概要

学校名

沖縄県糸満市立糸満中学校

採択活動名

「海人科（うみんちゅか）」～海人が活躍した糸満の海を学ぼう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 「海の環境について考えよう」	1	海人科
2. 「地域のゴミ拾い活動」	2	海人科

取り組みの概要

#### 1 学年 「海の環境について考えよう」

- (1) 「海の環境について考えよう」をテーマに 15 時間設定で実施。海の現状を知るために、沖縄県立沖縄水産高等学校の教諭及び生徒を招き、SDGs の視点も絡めた講演会を実施した。
- (2) 講話を受け、ビーチクリーン活動を実施した。
- (3) 海洋ゴミを分別し、ゴミの種類、重さ、発生源等を調査した。
- (4) 海洋ゴミ等の調査を踏まえ、各学級でグループごとに探求テーマを設定し課題解決に取り組んだ。
- (5) 学年発表を開催し、各学級で調べたことを発表した。その後は成果物を学校及び市役所ロビーに掲示し、保護者や一般市民へ発信した。

#### 2 学年 「地域のゴミ拾い活動」

- (1) 各学級に分かれ、地域のゴミ拾いを行う。
- (2) 学校に戻り、ゴミを分別する。
- (3) 各学級で、陸のゴミと海のつながりを考える。
- (4) グループで乾燥・わかったことを発表し、交流する。



1 学年 ビーチクリーン



1 学年 ゴミ分別

## 2. 自己評価

### 【妥当性】

設定したテーマに沿って学習を行うことができた。活動を通して地域の海の現状を知り、生徒が課題意識をもって学習に取り組むことができた。探究活動を実施したが、分量は適切であった。海洋教育の入り口として、SDGsを踏まえた「海の環境」について取り組んだ。学習内容や分量は生徒の現状に合ったものであった。

### 【有効性】

1学年はおむね計画通りに実施することができた。2学年は新型コロナウイルスの影響もあり、計画が変更される部分があった。3学年は新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。各関係機関は例年連携を重ねてきた機関であったため、協力が得られやすく、協力体制や指導内容は教員が意図した学習内容であったため良好であった。三者面談期間中、廊下等に成果物を展示し、保護者へ発信する機会とすることができた。

### 【効率性】

今年度の状況を考えると、実施時期は適切であったが、次年度は早い段階での実施を計画している。「海の環境について」調査している沖縄水産高等学校の教員や生徒に依頼しているため、内容は充実していた。実施期間内に活動内容をすべて終えることができた。

### 【成果】

SDGsの視点において、生徒が課題意識をもって活動に取り組むことができ、海の環境について考えるきっかけとなった。各教科の関連する項目やSDGsの14番に繋げることで効果的な活動ができた。SDGsの視点から、海の環境問題について触れることとなったが、生徒が理解可能な内容から導入し、体験活動などを通して取り組んだので、生徒の海洋への関心の高まりが見られた。

### 【持続性】

徐々にではあるが、活動を通していく中で、職員に浸透されていった。学校内で成果物の報告及び展示を実施。今年度の学習内容及び成果物を、糸満市役所のエントランスにて展示・活用する見込みである。次年度も今年度取り組んだ活動をもとに、さらに発展させた内容の学習活動を行う計画を検討している。

【信頼性】担当教員は、前年度から実施しているため、他の教員よりは比較的知識を有している。職員間で安全対策に力を入れ、活動当日は沖縄水産高等学校にも協力を仰ぎ、活動の協力体制を整えることができた。講話やビーチクリーン活動に新聞記事として取り上げられ、外部へ発信することができた。

### 【その他コメント・感想】

○これまで体験活動に重きを置くことがあったが、今年度は持続可能な計画を立てることができ、探究活動として取り組むことができた。また、SDGsの視点から活動を進めることができ、海洋教育の導入部分として効果的であったと考える。

○探究活動に取り組む中で、学年生徒の良さに気づくことのできる機会となった。

### 3. 学校関係者評価

学校運営協議会を開催した後、報告をします。